本草圖譜

果部

六十五

特 7
19
230

本草圖譜

特7-230

本草圖譜卷之六十五目錄

果部　山果類

橘（きつ）	かうし	一	黄橘（わうきつ）解集	こわかうし	二
朱橘（しゆきつ）同上	あかゝうし	三	一種	とうみかん	
緑橘（りよくきつ）同	あをみかん	四	包橘（はうきつ）同	かうし	
一種	福州たちばな	五	早黄橘（さうわうきつ）同	わせかうし	
穿心橘（せんしんきつ）同		六	凍橘（とうきつ）同	おゝそのかうし	
茘枝橘（れいしきつ）同	りきみかん	七	一種	あつみかん	

堀田文庫

ガラス使用

柑（かん）　みかん
海紅柑（かいこうかん）（同上）　きやうちこみかん　九
一種　紅伊國みかん　十
獅頭柑（しとうかん）（同）　雲州たちばな　十一
一種　菊みかん　十二
一種　ゆこう　十三
一種　かぶす　十四
一種　とうゆ
乳柑（にうかん）（集解）　八
洞庭柑（とうていかん）（同）　まふきん　たちばな
朱柑（しゆかん）（同）　へふそかん
饅頭柑（まんぢうかん）（同）
橙（とう）　くねんぼ
一種　たい〱
柚（いう）　ゆ　十五
一種　きんゆ　十六

一種　ゆかう
一種　をんわうまうち　十八
枸櫞（くえん）　まるぶかん　廿
金橘（きんきつ）　ひめこたちばな　廿二
一種　あかゞきんかん
朱欒（しゆらく）（名釈）　ざぼん　十七
香欒（かうらん）（集解）　ざうくねんぼ　十九
佛手柑（ぶつしゆかん）（名釈）　てぶしかん　廿一
金豆（きんづ）（集解）　まめきんかん　廿三

本草圖譜巻之六十五

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

果部　山果類

橘（きつ）

かくのみ（日本記）　たちばな（和名鈔）　かうじ（今の名）
トゲテグ（朝鮮）　シ子ーセアツフル（荷蘭）　金（きん）衣（い）（本草和名引兼名苑）

黄（わう）（同上）　玉局（きよくきよく）（花暦百詠）　青露（せいろ）（名物方言）

今云たちばなは別物にして古云たちばなに非ず今西國にてたちばなと云

云物は柑より微し小之此は八閩通志の猴橘之橘はかうじの類の惣名にて薬用に入る橘皮陳皮はかうじの皮を用ゆべし橘柑の分別集解に詳なり時珍の説に橘實小其瓣味微酸其皮薄而紅味辛而苦柑大于橘其瓣味甘其皮稍厚而黄味辛而甘と云に従つて橘はかうじなるを疑ひなし橘柑の類四國九州等の暖地に多し栽ゆ橘の樹高さ一丈余に至る葉は冬青に似て尖りあり花五瓣白色空疏に似て枝幹に刺あり実柑より小く皮薄し今薬用に柑皮を用ゆるは非なり

黄（かう）橘（きつ）（集解）　きゝわかうし（遠州）

遠州白輪より出づ形柑より微し大にして肉皮に満つ肉の味ひ甘く皮甚だ薄く皮肉の間に白脈なしこの皮を以て上品とし近ごろ上総の東金より出るもの形味ひ同じ

ガラス使用

志ふけかうじ

朱橘（しゆきつ）解集

べにかうじ　あかかうじ

涂（とく）血（けつ）（江南圖史）

実の大さ柑（かん）の如くにして皮（かは）の色赤（あか）く美（び）なり

ガラス使用

一種

とうみかん

筑前筑後に産し元漢種なるよし植あり大にして皮の肌へ細密にして橙の如し皮赤く肉の味ひ甘し核少なし

緑橘（集解）

あをみかん

朝鮮より来る柑の類に非ず青色のときより食ふべし

ガラス使用

包（はう）橘（きつ）　集解

かうし

尋（つ）常（ね）のかうしく柑（かん）より小にして皮薄（うす）く皮の肌（はだへ）平にして黄（き）色光りありて下品なり味ひ苦（にが）し

一種

福州（ふくしう）たちばな

實はかうしに似て皮（かは）薄（うす）く肌（はだへ）細（こまか）に味ひ酸（すつぱ）し

ガラス使用

早黄橘（さうわうきつ） 集解

ワセかうし

近年下総（しもふさ）の東金（とうかね）にて橘柑の類を多く栽（うゆ）秋より早（はや）苗のかうしを出（いだ）しに物られ之ヲ尋常の かうしに似て緑色 稍（やゝ）大く味（あぢはひ）苦（にが）く酸し

早紅橘（さうこうきつ） 汝南圃史

穿心橘（せんしんきつ） 集解

皮を去ハ中心よ一指（ひとゆび）を入るゝほどの穴ありとの之槌 ふもこれあり

ガラス使用

凍橘 集解

おくてのかうし

冬月に至て尚実木に附て落ざる物

茘枝橘 集解

くさみかん

大さかうじの如く圓く皮厚く硬し黄白色の疣瘤の形ありて茘枝の皮に似たり

ガラス使用

一種　なつミかん

盧橘（潜確居類書）

葉ハ柚の如し肉皮ミかんニ似たる早く出る

柑

ミかん　甘子（酉陽雑俎）　穣侯（事物異名）

瑞金奴（群芳譜）

柑ハ橘と同しく暖國の産ニして寒國ニハ養ひかたし花葉共小橘ニ似たり実の皮厚くして氣孔粗く肉の味ひ甘し其種類多し右ニいふ処ハ柑の總名なり

乳柑（にうかん）

田村氏の説に昔年朝鮮人柑子（てうせんじんかうじ）を持来る者あり喚（よび）てかんもといふ形ちくねんぼに似て小し皮の色もくねんぼより鮮（あざやか）くみかんに似て少し大（おほき）なりにて氣（にほひ）甚香しく味ひ至て甘（あま）し其皮の厚（あつ）さくねんぼより少し薄（うす）し疑（うたがふ）らくは乳柑（にうかん）ならんといへり

海紅柑（かいこうかん）集解

ぢやがたらみかん

実大さくねんぼの如く皮厚（あつ）く赤色霤（うる）へ細にして肉の味ひ甘（あま）し

洞庭柑（どうていかん）（集解）

まるきん

くちだちな

昔年筑後柳川侯朝鮮（てうせん）より此種を持帰り栽られしより今世に多（おほ）し実の形志やゝたうみかんに似て扁（ひらく）蒂（へた）細（こまか）にして皮薄（うす）く肉の味（あぢは）ひ甘く核（さね）少なし

一種　紀伊國（きのくに）みかん

形大ならずして皮（かは）厚（あつ）く肌へ麁（あら）くして柔（やはら）かに肉の味（あぢは）ひ甘美なり

ガラス使用

朱柑　集解

へみこかん

皮黄赤色
にして酸味多
く下品なり

獅頭柑　集解

雲州たちばな

駿州に多く栽ゆ形大
にして柚の如く稍扁く熟
して紅黄色綠色の疣
瘩ありて蝦蟇の背の
如く味ひ甘し以上三種ハ
葉の形大にして橙葉の
如本山小葉なし枝幹
刺あり花五瓣白色柑
の花より大なり

ガラス使用

饅頭柑（まんぢうかん） 集解

形紀伊國（きのくに）みかんより小く皮厚く硬く蔕（てい）の着（つ）く処別に高く起りて木瓜の臭の如し

一種

菊（きく）みかん

葉ハくねんぶの葉に似て小く
実ハ柑より小く黄色の処（ところ）へ
竪に緑色の紋ありて菊（きく）
花の如し

橙（とう）　くねんぼ

棖（とう）（群芳譜）

蜜橙（秘傳花鏡）

樹高大にして葉ハ柚の如し大小本ハ小葉あり枝間ニ刺あり花まるく柚ニ似て大し実雲州たちばなニ似て肌蜜ニして厚く肉液多く味ひ甘く香氣あり

一種　ぶんたいゆう　[illegible]

長崎ニあり形常のたいゆうの如くニして蒂二重あり饅頭柑の如し苦味少く食するによし又たいゆうと同し冬月ハ黄色春月ハ緑色ニ変し年を経ると同し

一種　たいたい　かぶす（丹長）

同　青橙（八閩通志）

樹葉ハたいたいに似て分別しかたし但其実青し冬月霜を経て漸ク紅黄色味ハ酸ク苦し此皮近頃疝積を治するに用ゆ冬月紅色なる実春に至り緑色に変し冬又紅色に至る年を経るゆへたいたいと云

一種

かぶす

樹葉ハくねんぼに似て刺多く実稍小にして柚の如く黄色味ひ苦く臭氣ありて食れへからず但乾して蚊をいぶす故この名あり長州にハ苦味少く酸味多く食すへき物ありといへり

柚

大橘（大倉州志）　ゆ（和名鈔）　ゆず（筑前雲州）　かうとう（中國）

樹高大にして枝間に刺多く葉両段をなし夏月五瓣の白花を開く実ハ柑より大に橙より小にして黄色肌粗く味ひ酸し

ガラス使用

一種 とおゆ

しやうゆ　たるゆ

邏柚（廣東新語）

實の形小さくして硬く春に至りて実猶樹にあり味ひ劣れり

一種 きんゆ

実の形相似て皮細にして平なるく柑の如く純黄色酸味少なし

ガラス使用

一種

ゆかう

形状柚に似て酸味少なく甘味ありて果となすべし

朱欒（しゆらん）名釈

ざぼん　ざんぼ（筑前）　じやぼ（土佐）

じやかたらみかん（京）

此物柚と異なり葉長さ七八寸花五弁白色柚の如く実甚大にして匏の如く外皮も又柚の如く黄色皮厚さ一寸許り肉淡黄色にして苦く生にて食ふへからず砂糖に和して食用に

ざぼん

一種

きんかうまうき

形状剪條（まく）と同くして長さ（およそ）一尺に及ぶ

香欒（かうらん）集解

ざうみねんぶ（日向）

さんぼう（伊豫）

うちむらさき（筑前）

四國九州の暖地（えんち）にあり形状前に似て唯皮の内の瓤（じやう）淡紅（たんこう）色香氣（かうき）あり味ひ稍（やゝ）甘く食ふ可し

ガラス使用

枸櫞（くゑん）　まるぶしかん

暖地にあらざれは実を結ぶ
は葉は柚に似て厚（あつ）く大く葉の
本（もと）に小葉ありし花五瓣柚の
花に似て大にして淡紅色を
帯（おぶ）其実（そのみ）圓くて両頭（りやうとう）尖
り長（なが）さ二三寸皮淡黄にして
厚（あつ）く稍疙瘩（いぼ）あり肉白色
味（あぢは）ひ不可なり只砂糖（さとう）或は
蜜煎（みつせん）して食用とし又薬用とす

佛手柑（釈名）　てぶしかん

飛穰（通雅）

佛爪香圓（八閩通志）

樹葉前條と同し唯此物嫩葉紫色を帯るを以て別とス唯其実蒂ハ枸櫞の如く中央より末分れて十瓣許り屈曲して人の手に似たり肉白色にして核なし

ガラス使用

金橘（きんきつ）

ひめたちばな

きんかん

瑞金奴（ずいきんぬ）（秘傳花鏡）

樹葉柑に似て葉稍（やや）小く刺（はり）あり
花五瓣（ごべん）白色小（ちいさ）く実の大さ枇杷（びは）
の如（ごと）く熟（じゆく）して黄色生にて食し
砂糖（さとう）に漬（つけ）て食用す

金豆（きんつ）

まめきんかん（集解）

樹葉（じゆえふ）薊條（けいでう）と同しく唯
実（み）小（ちいさ）く大豆（だいづ）の大さ秋月熟（じゆく）
して黄色春に至（いた）りて
紅黄色尚樹に着（つき）て有
り肉（にく）少く食ふに堪（え）す

ガラス使用

特 7
19
230

一種

ながきんかん　金棗（百花詩譜）

牛嬭金柑（汝南圃史）

樹葉前條と同しく実長ふして棗の如し

ガラス使用